

「公益財団法人 日本城郭協会 平成26年度事業計画」

平成26年3月

- 1、「日本100名城スタンプラリー」事業の強化と発展ための施策
当協会選定の日本100名城を探訪する「100名城スタンプラリー」はますます評価が高く、100名城登城達成者は430人を超えた。登城達成者からの要望で準備を進めてきた「認定証盾」は4月から発行する。
また100名城登城者からお互いの情報交換の場を求める要望が、これまでもたくさん寄せられているが、名城スタンプラリーの今後の発展のためにも、今年度中に登城者達成者の組織化（例・100名城クラブ）をはかる。具体的要項などは5月には決定する。
- 2、学術委員会の活動強化
学術委員会の活動強化のために、これまでの理事長の諮問機関から実行機関に衣替えする。このため具体的な事業を実行に移す要員を専門委員として任命する。
- 3、「親子名城見学会」「城の自由研究コンテスト」の継続・強化
「親子名城見学会」と「城の自由研究コンテスト」は平成14年度からの学校における総合的学習の登場と、体験学習の重視に応じて開始したが、教育関係者・児童生徒から支持をえて、大きな教育的成果を上げている。本年度も朝日学生新聞社・公文教育研究会との共催で一層の充実を図る。具体的には「名城見学会」では話題性の高い城で開催するほか、開催城の増加、開催時期の見直しなど運営方法を改める。「コンテスト」は応募者のためのPRをさらに強化する。年度末には報告書を刊行する。
- 4、「日本城郭検定」の拡大・充実
日本城郭検定は昨年12月の第3回検定はPR不足もあって低迷した。このため本年度は6月1日に予定している第4回検定の広報・PRに全力をあげ、歴史雑誌に告知を掲載するなど様々な展開を図る。また第4回では検定人口のすそ野をひろげるため、入門クラスを新設する。
- 5、「城シンポジウム」の開催
公益財団法人移行記念の「信長の城」シンポジウムを3月に東京で開催したが、引き続き秋には大阪での開催を検討する。
- 6、「ヨーロッパ100名城」の社会的認知度の向上
「ヨーロッパ100名城」の社会的認知度を高めるための新たな方策を策定。このためスタンプラリー登録者や前評議員ら数名による検討委員会を

発足させる。

7、会報・ホームページの充実および会員へのサービス強化

会報の増ページとホームページの改装では、会員からの評価を得たが、さらに一層の充実を図る。また多くの会員からの寄付に応える意味でも、会員へのイベント招待や会員相互の情報交換など会員サービス強化に一層の努力をはかる。